

# 【聽譯】 星色夜空



星が広がる空  
一人立ち止まって  
伝えられずにいる  
この想い 見上げて

廣闊星空下  
一個人駐足  
傳達不到的思緒  
仰頭許下心願

---

目に見える物は  
全部 愛おしくて  
耳に届く音は  
何もかも 美しい

眼中映入的事物  
全部都如此可愛  
耳中傳入的聲音  
句句都如此美麗

---

星を 線で結んで  
君を描いて  
瞳 の中に 映した  
いつも 強がる  
私は突っぱねて  
本当は 君が居ないと  
駄目なのに

用線條將星星連起來  
畫出你的樣子  
牢牢記在眼中  
一直在 逞強的  
我一直在抗拒  
其實 沒有你  
就完全不行

---

遠く 遠く 続いてる空  
その向こうで 君は 何  
想う  
いつか消える あの星の  
下  
永遠を願い 想い 見上げ

向遠方延展的夜空  
那一端的你 在想什麼  
不知何時會消失的 那顆  
星下  
但願人長久 許下心願

---

強く 弱く 光を放つ  
君の近くに 北斗七星  
そんな 輝きであるよう  
に  
君を想い 願い掛けて

忽強忽弱 閃爍亮光  
你的附近 有北斗七星  
就像那星的耀眼  
帶上我對你的想念

---

夜が明けていく  
君を想えなくなる  
朝が来る頃には  
また強がってしまう  
微かな光は  
もっと愛おしくて  
朝へ向かう音に  
耳を固く塞ぐ

夜漸漸破曉  
想你的時間將盡  
迎來早晨的時候  
又要逞強起來  
細微的光亮  
愈發變得愛惜  
對着破曉的聲音  
嚴實地堵上耳朵

---

時を止めて夜が続いてく  
魔法が  
この手に あればいいの  
に  
本当は君と居るときも  
同じように  
ずっと 思っているのに

如果有能讓時間停止繼續  
夜晚的魔法  
在我手上的話就好了  
其實和你在一起的時候  
也是一樣  
一直在想着你

---

長く 永く 続いてる夜  
この闇の中で 君を想う

夜晚永遠持續下去  
這片黑暗中 在想着你

いつも隠して持ち歩いた  
君がくれた人形見つめ

一直藏在身邊隨身帶着  
盯着你給我的人偶

弱く 強く 何度も 君  
の  
名前を 繰り返し 呼ん  
でいる  
よく間違えては怒られた  
覚え難い 愛しい名前

細聲地大聲地 無數次  
翻來覆去呼喊你的名字  
經常搞錯惹你生氣  
很難記的 喜歡的名字

遠く 遠く 続いてる空  
その向こうで 君は 何  
想う  
いつか消える あの星の  
下  
永遠を願い 想い 見上げ

向遠方延展的夜空  
那一端的你 在想什麼  
不知何時會消失的 那顆  
星星下  
但願人長久 許下心願

強く 弱く 光を放つ  
君の近くに 北斗七星  
そんな 輝きであるよう  
に  
君を想い 願い掛けて

忽強忽弱 閃爍亮光  
你的附近 有北斗七星  
就像那星的耀眼  
帶上我對你的想念

這首魔理莎和愛麗絲的「星色夜空」用詞都比較簡單，就只放註音版吧。只不過翻譯的時候，譯着譯着還在想，歌詞中提到兩人分處兩地的思念，會不會不僅僅是遠距離，而是宿命論下的陰陽兩隔呢？

---

ほし ひろ そら  
星が 広がる 空  
ひとり た ど  
一人 立ち止まって  
つた  
伝えられずにいる  
おも みあ  
この 想い 見上げて

---

め み もの  
目に見える 物は  
ぜんぶ いと  
全部 愛おしくて  
みみ とど おと  
耳に届く 音は  
なに うつく  
何もかも 美しい

---

ほし せん むす  
星を 線で 結んで  
きみ えが  
君を描いて  
ひとみ なか うつ  
瞳 の中に 映した  
つよ  
いつも 強がる  
わたし つ  
私は 突っぱねて  
ほんとう きみ い  
本当は 君が居ないと

だめ  
駄目なのに

---

とお とお つづ そら  
遠く 遠く 続 いてる 空  
む きみ なに おも  
その 向 こうで 君 は 何 想 う  
き ほし した  
いつか 消 える あ の 星 の 下  
とわ ねが おも みあ  
永 遠 を 願 い 想 い 見 上 げ

---

つよ よわ ひかり はな  
強 く 弱 く 光 を 放 つ  
きみ ちか ほくとしちせい  
君 の 近 くに 北 斗 七 星  
かがや  
そ ン な 輝 き で あ る よ う に  
きみ おも ねが か  
君 を 想 い 願 い 掛 け て

---

よる あ  
夜 が 明 け て い く  
きみ おも  
君 を 想 え な く な る  
あさ く ころ  
朝 が 来 る 頃 に は  
つよ  
ま た 強 が っ て し ま う  
かす ひかり  
微 か な 光 は  
いと  
も っ と 愛 お し く て  
あさ む おと  
朝 へ 向 か う 音 に  
みみ かた ふさ  
耳 を 固 く 塞 ぐ

とき と よる つづ まほう  
時を止めて夜が続いてく魔法が  
この手に あればいいのに  
ほんとう きみ い おな  
本当は君と居るときも 同じように  
ずっと おも  
思っているのに

---

なが なが つづ よる  
長く 永く 続いている夜  
この闇の中で きみ おも  
やみ なか  
君を想う  
いつも かく も ある  
隠して持ち歩いた  
きみ にんぎょう み  
君がくれた人形 見つめ

---

よわ つよ なんと きみ  
弱く 強く 何度も 君の  
なまえ く かえ よ  
名前を 繰り返し 呼んでいる  
よく まち おこ  
間違えては怒られた  
おぼ にく いと なまえ  
覚え難い 愛しい名前

---

とお とお つづ そら  
遠く 遠く 続いている空  
その向こうで きみ なに おも  
む  
君は 何想う  
いつか き ほし した  
消える あの星の下  
とわ ねが おも みあ  
永遠を願い 想い 見上げ

---

つよ      よわ      ひかり      はな  
強く   弱く   光を放つ

きみ      ちか      ほくとしちせい  
君の近くに   北斗七星

そんな      かがや      きであるように

きみ      おも      ねが      か  
君を想い   願い掛けて